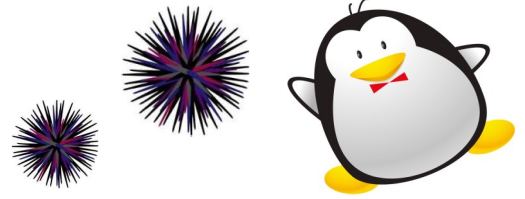




# 弘前南SSH通信



## □4月の活動報告

### 1. 探究活動の進め方講演会 4/20 (木)

探究活動の進め方について、長南幸安先生を講師としてお招きして講演会を開催しました。

探究学習の進め方について、

- ①興味があることことから課題を見つけ出す。
- ②テーマを徹底的に調べながら仮説を設定する。
- ③実験方法を工夫しながら仮説の検証を行う。
- ④先行研究や文献を参考に結果を考察しまとめる。

という活動のプロセスとそのポイントを示していただきました。



### 2. 3ER講演会 4/27 (木)

青森県の科学資源（3ER）について、各分野の専門家をお招きして講演会を開催しました。

- ・『エネルギー資源』分野 講師：岡部敏弘氏  
持続社会構築に向けた再生エネルギー活用 of 取組の現状や、青森県の特色を生かしたバイオマス循環システムの開発などについて、具体的に説明していただきました。
- ・『産業資源』分野 講師：奈良岡哲志氏  
産業技術センターの様々な取組の成果が、青森県にある100を超える多種多様な産業資源の活用に生かされていることを、研究・開発の解説とともに紹介していただきました。
- ・『生態系資源』分野 講師：相馬光春氏  
森林と水の関係性や植物と動物のつながりについて、また白神山地の生態学的な価値や直面している温暖化の危機について、生物の多様性の観点から詳しく説明していただきました。



### 3. 大学院生による研究紹介 4/27 (木)

SSHクラスを対象に、課題研究の進め方と発表技術を学ぶことを目的として、弘前大学から大学院生3名をお招きし、研究内容を紹介していただきました。

- ・農学生命科学研究科 生物資源学科  
修士1年 菅原 魁人 氏  
『オーストラリア野生イネの系統分化に関する研究』
- ・理工学研究科 物理科学コース  
修士1年 米谷 陸杜 氏  
『銀形ゼオライトの発光機構』
- ・理工学研究科 知能機械工学コース  
修士1年 齊藤 達也 氏  
『ナノパウダー焼結体の強度特性に及ぼす焼結条件の影響』



## □科学オリンピックのすすめ

今回は科学オリンピックについて紹介します。南高ではこれらの行事への参加を積極的に勧めており、ここ5年間で多くの先輩方がチャレンジしています。ペーパーテストの予選から全国大会や世界大会を目指していきます。高校生の学力レベルや学校で習う基本的な内容を踏まえつつも、科学の世界を紹介するような問題も出題されます。科学の知識が生かされる場面や、教科書で学んだ事柄が応用される場面を発見する面白さもあります。問題を一見すると見たこともない化学式や反応系が出てきて、一瞬ひるんでしまうかもしれませんが、じっくりと取り組んでみると、普段の学校の試験や入試問題を解くコツやヒントが得られるはずです。単に得点を競い合うだけではなく、参加者にこれまで知らなかった科学の一面に触れる機会を与えたいというのが「科学オリンピック」の精神です。

## □今年度の実施予定（参加は全て無料！）

今年度の日程等の詳細は以下の通りです。

問題のレベルは少し高いですが、入試問題やセンター試験の対策としてたいへん役立ちます。

**受験勉強、試験勉強の一環としてぜひ挑戦してみましよう！！**

	物理チャレンジ	生物オリンピック	化学グランプリ	地学オリンピック※3
応募締切	<u>5/31(水)</u> まで ※1	<u>5/31(水)</u> まで	<u>6/8(木)</u> まで	9/1(金)～11/15(水)
試験日時	7/9(日) 13:30～15:00	7/16(日) 13:30～15:00	7/17(月・祝) 13:00～16:00	12/17(日) 13:00～15:00
会場	参加人数により決定	弘前大学 ※2	弘前大学理工学部	本校
出題範囲	高校「物理」の全分野	高校「生物」の全分野	高校「化学」の 無機、有機、物理化学	高校「地学基礎」 及び「地学」の一部
二次選考	上位100名	上位約80名	上位約80名	上位60名

※1：6月16日(金)までに実験課題レポートを提出する必要があります。

（実験課題「重力加速度の大きさを測ってみよう。」）

※2：本校申し込み人数が30人以上の場合は、本校が受験会場になります。

※3：地学オリンピックの詳細については、後日改めて案内します。



科学オリンピックの受験資格は1～3年次生全ての生徒にあります。予選、本戦を突破すると日本代表として世界大会に出場するチャンスがあります。過去問を見たい、または興味のある生徒はぜひサイエンス指導部、澤村まで来てください。